

編集・発行

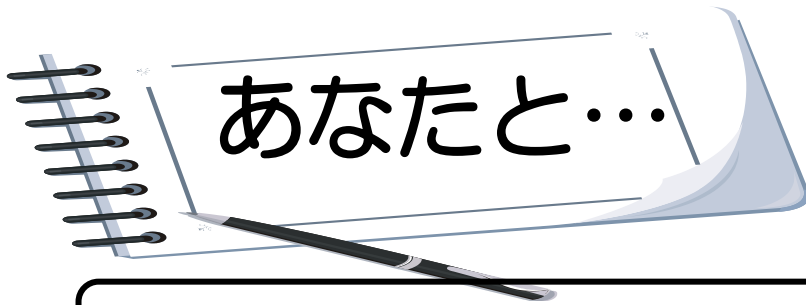
町田市男女平等推進センター

運営委員会

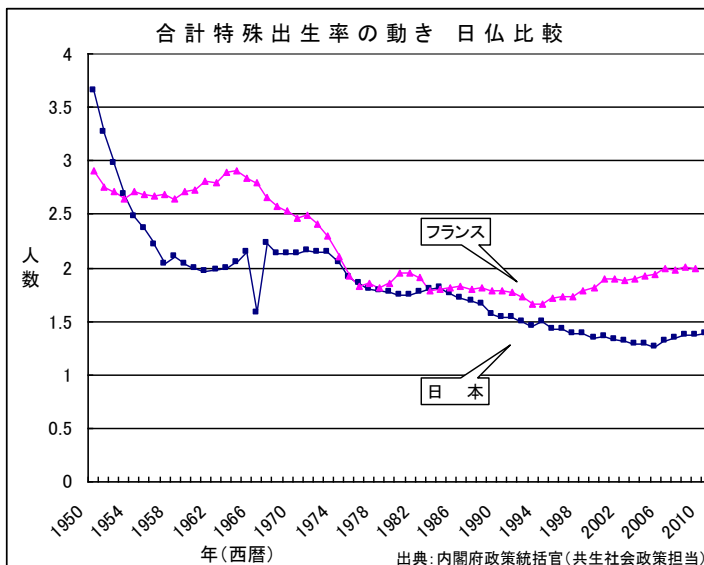
町田市原町田4-9-8

町田市民フォーラム3階

TEL 042-723-2908



## フランスは 日本の子育て支援のモデルになるか!?



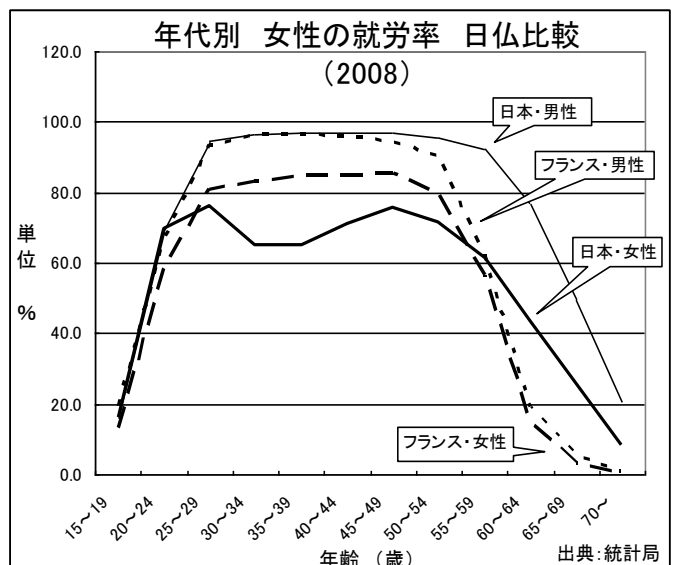
### かつては少子化に悩んだフランス

日本の危機の一つに「少子化」があります。様々な対策が行われていますが効果は今ひとつ。一方、フランスが出生率を回復させたことは知られています。(合計特殊出生率 日本:1.39 フランス:2.0) フランスも 90 年代には少子化に悩みました。どのような政策が実行されたのでしょうか?

### 手厚い 子育て家族を支援する政策

フランスでは、子育て家族を支援する政策が生活のすみずみにまで行き渡っています。たとえば…

- ①子ども2人目から所得制限なしで20歳まで支給される「家族手当」。子どもが増えるほど加算
- ②出産費用や子どもの医療費は無料
- ③公立高校まで授業料は無料
- ④子どもが3人以上の家庭には「大家族カード」が支給され、交通費や文化・レジャー施設の料金補助、家電製品の割引
- ⑤子どもの数が多いほど有利な税制
- ⑥3人以上の子を9年間養育した男女に年金額を10%加算 など。



### 女も男も 子育てと仕事が両立できる国

日本は子育て期(30代前後)の女性の就労率が低くなる「M字曲線」を描きます(グラフ)。多くの女性が「仕事」か「子育て」か、どちらか一方を選択せざるをえないのに対し、フランス女性の就労率は子育て期にも下がらず、仕事と両立しています。

フランスでは「子育て」が働く女性にとって不利にならないよう、育児休業は3才まで取得でき、その間は休業手当が支給され、元の職場への同等の地位での復帰が保障されています。また父親にも「父子手帳」が交付され、出産休暇も3人に2人は取得しており、男性も家事育児をするのが当たり前になっています。

「財源は?」との声もありますよね。フランスは家族政策への財政支出として、国内総生産(GDP)比で、日本の0.6%に対し、2.8%(約6兆4500億円)を投じています。「やる気」と「やり方」の問題のように思われますが、いかがでしょうか?

登録団体研修会

## ハラスメント防止講座 (セクハラ編)

11月20日(火) 18:30~20:30

町田市民フォーラム3階視聴覚室

講師 **菅谷 純江** さん  
(NPO法人 キャスナ)

「セクハラ」が一向に無くなりません。快適な職場作りや地域活動の為に「セクハラ」防止の知識は不可欠です。参加ご希望の方は下記にお問い合わせください。

町田市男女平等推進センター  
042-723-2908

講演会

## 「女と男」本当に平等でしょうか?~いま、あらためて考え合う~

保育あり

11月14日(水) 13:30~15:30

町田市民フォーラム3F 視聴覚室

講師: **江原 由美子**さん  
(首都大学東京 副学長)

世界と日本の男女平等参画状況と、その推進のために何をすべきか、一緒に学びませんか?

申し込み: 10/22より

町田市イベントダイヤル  
042-724-5656

もう一度働きたい! 女性のための  
体験から学べる

## 再就職準備セミナー

10月2・9・16日(火)

10:00~12:00 女性対象 保育あり

町田市民フォーラム4F 学習室

講師: **高坂 美幸**さん  
(キャリアカウンセラー)

## ハローワーク町田

(マザーズコーナー)

①働く準備、コミュニケーションの取り方②自己分析、職務経歴書の書き方③面接時のポイントなど  
申し込み:

町田市男女平等推進センター  
042-723-2908



## シネマでトーク

大きなスクリーンで名画を観て感想を話し合しましょう。 **無料**

市民フォーラム3階 活動室

\* 10月9日(火) 14:00~

### 「やさしい嘘」

03年(スイス)99分

エカおばあちゃんの楽しみはパリで暮らす息子オタルからの手紙。ある日、オタルは事故で亡くなる。娘マリーナと孫のアダはオタルのふりをして手紙を書き続ける。

\* 11月13日(火) 14:00~

### 「亀も空を飛ぶ」

04年(イラン・イラク)97分

イラク戦争で荒廃した大地にたくましく生きる子どもたちと、彼らが経験する出来事を、リアリズムと幻想を混在させ、力強いタッチで描く。

\* 12月11日(火) 14:00~

### 「ブラダを着た悪魔」

06年(アメリカ)110分

アンディはジャーナリストを志し、ニューヨークにやって来る。オシャレに関心のない彼女は、無謀にも一流ファッション誌の面接を受ける。編集長ミランダのアシスタントの仕事を手に入れるのだが、翌朝か

生きるエネルギーを大きくしてくれる。親育ち、子育てを考える一冊です。

「ゲイでええやん」  
伊藤真美子 東京シユレ出版  
高校生の息子から突然、自分が性的マイノリティー(少数者)であることを告げられた! 学童保育指導員として、子どもや親たちと本音で関わってきた著者が、息子のカミングアウトにショックを受けながらもまっすぐに受けとめようと葛藤する姿が語られます。「子ども自身が前へ進む力を持っている。そこに信頼を寄せる努力が問われる」そして「生き方や価値観を問い直すことも必要」その葛藤は「キツイけれど感動をくれ、その感動が生きるエネルギーを大きくしてくれる」。親育ち、子育てを考える一冊です。

「バックラッシュの生贄」三井マリ子 浅倉むつ子編 旬報社  
99年に男女共同参画社会基本法が成立し、全国の自治体で男女平等施策が活発になった00年頃、その流れを阻む威圧的で陰湿な、自治体への介入・圧力をバックラッシュと言います。豊中市「すてっぷ」館長だった三井マリ子さんが、バックラッシュ勢力の精神的暴力に屈した市と財団により館長職を解雇されましたが、訴訟の結果は三井さんの全面勝訴。最後まで闘いぬいた三井さんと彼女を支えた女性たちの記録です。

新刊書紹介図書の貸し出しやDVD・ビデオの視聴ができます!  
「彼女が会社を辞めた理由」夢を叶えた元会社員13人の物語  
景山恵子 阪急コミュニケーションズ  
勤めていた会社を辞め、起業し、大胆な転進を遂げた13人の女性たち。しかし初めは皆、先の見えない日々の中、リスクを引き受け、レンガを一つずつ積み上げるように築き上げていった各々の物語があります。仕事に意義を見出して成長していきたいと願う多くの女性たちは「このままでいいのか?」と自問自答していると云います。本書は、そんな悩みを抱え自分らしく生きたいと願う全ての女性へのメッセージです。

## 「仕事と家庭の両立推進企業賞」を募集します

町田市では、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進に積極的に取り組む、市内の企業及び事業所を募集しています。仕事と家庭の両立を支援し、男女ともに働きやすい職場環境づくりを積極的に進める企業及び事業所を表彰し、その取り組みを「広報まちだ」「町田市ホームページ」「受賞企業紹介リーフレット」等でご紹介します。自薦、他薦は問いません。  
○応募方法 町田市ホームページから応募用紙をダウンロードし直接又は郵送で提出してください。